みんなの知恵と工夫でゴミ大幅減量へ

荒神山麓のゴミ処理施設 根本見直しを

建設地決定議案 取り下げ

彦根愛知犬上広域行政組合議会

全員協議会で判明

…異例の展開！…

2月2日召集された彦根愛知犬上広域行政組合議会の全員協議会で来る2月定例会（別掲参照）のために事前に配布された議案の一部が取り下げられると言う、今までにない異例の展開となりました。

事前配布された議案は、来年度の一般会計予算などと共に彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設の設置位置を定めることにつき議決を求めることについて「というものでした。

いままで土地造成事業の基本設計業務予算など 西清崎を前提とした「費用も多数の議員が賛成していることから、当局者らは「建設地」を決定する議案もすんなりと可決すると考えたのでしよう。

あまりにも

道理ナシ

ところが、今回は、環境影響評価作業の最中であり、あまりにも道理が無いことを隠し切れなくなつて、取り下げたものと見られます。

取り下げられたとは言え、当局は、西清崎 荒神山麓を建設地

にする方針は消えておらず、油断はできません。

取り下げた経緯と理由について組合事務局は次のように説明しています。

議案が組合議員に送付された1月26日（水）

の議会運営代表者会議で、「これ以上建設を遅らせることはできない」と賛成する意見も

あったが、「環境影響評価の途中に候補地の決定をすれば、とうてい住民の理解は得られない」、準備書の段階で

決定したらどうだ」などの反対意見が多く、

2月1日（火）の管理者会で取り下げることになった。

運動・論戦とも

機敏な対応

建設地決定「議案が提案されることを知った 荒神山を守る会」

は、2月1日付で広域行政組合の和田管理者に、建設地決定はルール通り環境アセスの後

に決めて下さいとの要望書、公開質問状」の

種類を提出していただきました。広域組合の日本共産党西澤伸明議員と角井英明議員は2月2日朝、管理者の和田市長と組合議会の杉原議長に、

建設地決定「議案は

時期尚早であり、ルール通り「環境影響評価」の最終結果が得られるまで採決を保留することを求める要請書を提出しました（裏面）。

科学的

知見が光る

この間、環境学会元会長の畑明郎氏が科学的根拠に基づいて問題点を指摘。日本共産党の議員は議会で問題点を追及するとともに、

住民のみなさんに情報を提供して、ゴミ・環境問題など共に取り組んできました。住民のみなさんは「荒神山を守る会」を立ち上げ、

チラシ・ニュースなどを発行して世論に働きかけてきました。これ

らが複合して当局者を動かしてきたのだと考えられます。

建設地決定議案「は取り下げられました

が、議案として事前配布されたのは事実。どう

いう考えで上程しようとしたのか。その説

明はありません。

ゴミ問題は

環境問題

環境アセスメントは、持続可能な社会をつくるためのものです（別掲参照）。環

境保全・気候正義」は、今や地球温暖化

防止、気候変動による豪雨・熱波・海洋汚濁など人類が直面する喫緊の課題となっています。

この時期に大量のごみ類を燃やし続ける大型焼却炉でいいのか、と根本から問

い直す機会にしなければなりません。当局の姿勢は、最終結

果を待たずに決定地にしようとしたことは、西清崎での事業の正当性を疑わせる

ものです。

広域行政組合議会
2月定例会
とき：2月14日
PM2:00
ところ：豊栄のさと
(豊郷町)
傍聴できます

環境アセスメントとは

「開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていく」という制度です。」（環境省）

甲良民報

2022年2月6日 844号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在士 373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。

☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
©日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】

2022年2月2日

彦根愛知犬上広域行政組合議会
議長 杉原 祥浩 様

彦根愛知犬上広域行政組合議会議員 西澤 伸明
彦根愛知犬上広域行政組合議会議員 角井 英明

要 請 書

日頃より、議会運営にご尽力いただき敬意を表します。

今般、令和4年2月彦根愛知犬上広域行政組合議会定例会の招集に伴って配布された書面に「彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設の設置位置を定めることにつき議決を求めることについて」と題する議案書が同封されていました。

次に述べる理由により、時期尚早であるため採決せず、継続審査とし、ルール通り「環境影響評価」の最終結果が得られるまで採決を保留するよう強く要請します。

1 議案概要の「2. 選定理由」には「造成等基本設計業務により、土砂災害、浸水災害、および軟弱地盤にかかる対策、ならびに影響評価業務にかかる現況調査における課題の対策のいずれにおいても目処が立ち・・・」とあります。

しかし、「土砂災害、浸水災害、および軟弱地盤にかかる対策」について科学的知見に基づいた根拠資料、対策に要する費用が明確に示されているとはとても言い難い状況です。とりわけ「軟弱地盤にかかる対策」については専門家から地下水流入・浸透への対策、工法の不確実性などの懸念が指摘されており、懸念が現時点では払拭されたのか根本的な疑問が残ります。

2 「彦根愛知犬上地域一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（素案）」の「事業スケジュール」で「環境影響評価：令和元年度～令和5年度」（10ページ）と記されています。

また、令和2年6月1日の「新ごみ処理施設にかかる（彦根市の都市

建設部と）広域行政組合との協議」でも、広域組合は「アセスの配慮書を公表した。アセスの結果が出る令和5年において正式に候補地が決定地になる」「アセスが終わるまでは、あくまで『候補地』であり…」と述べています。

上記、情報公開請求で得られた書面でも「アセスを終えた令和5年」以降に建設地と確定することがルールであることを述べています。

- 3 工事用車両の通行も含めアクセス道路について、ルート、その完成の見通し、費用負担および諸制度との整合性について明示されていません。
- 4 多くの議員は任期等の理由により改選され就任間もないため、新ごみ処理施設整備計画について当該地が建設地として相応しいかどうか、適正地であるか否かなどの議論・審議が深められたとは考えられず、事実関係すら把握しきれないまま評決することは、市民・町民の信託を受けて監視役としての役割を果たすべき議員の責任放棄を生じさせかねず、今定例会での表決は時期尚早だと考えます。
- 5 環境影響評価（アセスメント）の最終結果を待たずして「建設地」を決定することは当該制度の趣旨そのものを無視することであり、当該制度への信頼性をより一層低下させることとなります。

以上

新ごみ処理施設整備計画とは

- ◆荒神山麓・西清崎地先に設置 ◆彦根市・犬上3町愛荘町で構成する広域行政組合が事業主体 ◆施設だけで約200億円、甲良町の負担＝約11億円 ◆それ以外で、用地の取得、浸水対策の盛り土、軟弱地盤の水抜きなど地盤強化、建物を安定させる杭打ち、搬入道路建設などの総費用は現時点で予測つかないと説明不明。数十億～百億円単位は必要と見られている ◆現在、環境アセスメントを実施中（23年8月まで）